# サルボウガイの中腸腺の構造

山元憲一<sup>1†</sup>·半田岳志<sup>1</sup>

# Structure of the digestive diverticula of the Half-crenated ark, Scapharca kagoshimensis (Bivalvia : Filibranchia : Arcoida)

Ken-ichi Yamamoto<sup>1</sup><sup>†</sup> and Takeshi Handa<sup>1</sup>

Abstract : The corrosion resin-casts and the tissue preparations of the digestive diverticula of the Halfcrenated ark, *Scapharca kagoshimensis* were observed. The resin-casts were made of the prepolymerization methyl methacrylate (MercoxCL-2R) containing 10 % Mercox MA. The tissue preparations were stained with Azan. The digestive diverticula (D) surrounded the oesophagus and the pyloric part of the stomach. In the middle of the stomach 13 or 14 ducts of the digestive diverticula (DD) showing orifice in structure started in a line in the middle of the stomach. The lumen of the duct (DD) was covered with brush border and cilia. The structure was the same in all parts of the duct (DD) even at the branching tips. The tubules of the digestive diverticula (T) branched after arising from the duct (DD).

Key words : Half-crenated ark; Filibranchia; Corrosion resin-cast ; Digestive diverticula ; Duct ; Tubule

#### 緒 言

二枚貝の中腸腺は、胃の周囲に位置し<sup>1)</sup>、胃に開口した 導管で連絡している<sup>2-5)</sup>。Purchon<sup>2)</sup>は、導管が直接胃壁 に開口しているものをOrifices構造、胃壁の湾入したとこ ろに数本の導管が開口しているものをEmbayment構造と 2つに大別し、二枚貝の種類によってそれらのいずれか の構造を示すものあるいは両者を併せ持った構造を示す と報告されている。このような胃と導管の構造は、マガ *キCrassostrea gigas*ではゼラチンによる鋳型をもとに図示 されている<sup>6)</sup>。導管の末端から中腸腺細管が伸びている構 造は、組織像の観察から模式的に図示されている<sup>5.7.8)</sup>。 Nakazima<sup>8)</sup>は、二枚貝の中腸腺細管の構造を導管の末端 から出た後分岐しているSimple branching type I の2 つの型に分けられると報告している。しかし、中腸腺の全 体像を立体的に明らかにした例は見られない。

そこで,著者らは、二枚貝綱についてはイガイ目(等糸

鰓類)のムラサキイガイMytilus galloprovincialis,等糸鰓 類で擬弁鰓型を示すリシケタイラギAtrina(Servatrina) lischkeana, 擬 弁 鰓 目 の ア コ ヤ ガ イPinctada fucata martensii,カキ目で擬弁鰓型を示すマガキの中腸腺につ いて,半重合メチルメタクリレートを使って鋳型を作成 し,切片標本の観察および固定標本を切開した断面像の 観察を行って,胃と中腸腺の立体構造を明らかにしてき た<sup>9-12)</sup>。本研究では,二枚貝綱の糸鰓類のサルボウガイ Scapharca kagoshimensisを用いて,前記と同様にして鋳 型および切片標本を作成し,固定標本を観察して中腸腺の 立体構造および組織像を調べたので報告する。なお,分類 は波部ら<sup>13)</sup>,首藤<sup>14</sup> および奥谷<sup>15)</sup>に従った。

#### 材料および方法

実験には, 佐賀県地先の有明海で採集した殻長48±8 mm (平均値±標準偏差)のもの40個体および殻長11±2 mm のもの10個体のサルボウガイを用いた。貝は, 入手

<sup>2009</sup>年4月9日受付. Received April 9, 2009.

<sup>1</sup> 水産大学校生物生産学科(Department of Applied Aquabiology, National Fisheries University)

<sup>†</sup> 別刷り請求先 (corresponding author): yamagenk@fish-u.ac.jp

住所:〒759-6595下関市永田本町2-7-1 (2-7-1 Nagata-honmachi, Shimonoseki 759-6595)

後, 0.5 μ m以上の粒子を除去した海水を1*l*/min注入した 状態で5~10日間蓄養して実験に供した。

鋳型 鋳型は、Handa and Yamamoto<sup>16)</sup>に準じて、主剤 (MERCOX CL-2R, 応研商事株式会社) 3*ml*当り硬化 剤(MERCOX MA, 応研商事株式会社) 約0.1gを混入し たもの(以降, 樹脂と表す)を用いて作成した。まず、貝 を約0.4M/*l*の塩化マグネシウム水溶液<sup>17)</sup>に約20分間浸漬 して軟体部を伸展させた。濾過海水を満たしたポリエチレ ン細管(外径約1mm,長さ20cm,Hibiki No.3)を口か ら食道へ約5mm挿入し、2分間に約1.5*ml*の速さで総量 約5*ml*の樹脂をプラスチック製の注射筒(5*ml*, Top) を使って注入した。樹脂を海水中で硬化させ、20%水酸化 ナトリウム水溶液に浸漬して肉質部を除去し、水洗した。 **胃の断面像** 観察は、Davidson液<sup>18)</sup>で固定後、胃を中心

にして軟体部を切開して行った。 組織像 観察は,小さい方の10個体を用いて,山元ら<sup>19)</sup> と同様にしてDavidson液で固定後,常法に従ってパラ

フィン切片(10µm)を作成し、アザン染色して行った。

#### 結 果

中腸腺(D)は、胃の背部を除く腹側の周囲を囲むよう にして展開していた(Figs. 1-5)。中腸腺へ延びている 導管は、胃の腹側を噴門近くの左側から幽門近くの右側に かけて半円形に連続してほぼ等間隔に13-14箇所Orifice構 造<sup>2)</sup>を示して胃壁に開口していた(Fig. 1)。それぞれの 導管(DD)は胃壁から出て、枝分かれを繰り返して次第 に細くなっていた(Fig. 2)。導管の内壁は、中腸腺細管 と連絡する先端部の中腸腺細管の断面とほぼ同じ太さのと ころまで、一様に繊毛で覆われた切れ込みと刷子縁で覆わ れた切れ込みで構成されていた(Fig. 6C, D)。

中腸腺細管(T)は、導管の末端から出た後、枝分か れしたSimple branching type I<sup>8)</sup>の型を示していた(Fig. 6C, E)。中腸腺細管の断面は楕円形でCrypt構造を示 さず、内腔はアザン染色で青く染まる消化細胞(DC)で 囲まれ、所々に赤く染まる暗細胞(DS)が散在していた (Fig. 6F)。

## 考 察

Yonge<sup>1)</sup> は, 原鰓類, 糸鰓類, 真弁鰓類の34種を調べ て, 中腸腺はいずれも胃を囲むようにして存在していると 報告している。細部を観察すると,等糸鰓類のムラサキイ ガイおよびタイラギ,擬弁鰓目のアコヤガイやカキ目のマ ガキでは,殻の会合部分に面した噴門部から幽門部にかけ ての胃の背側には中腸腺が存在していないと報告されてい る<sup>9-12)</sup>。サルボウガイの中腸腺は,これら4種と同様に胃 の背側を除く腹側の周囲に展開していた。

Purchon<sup>2)</sup>は、導管への胃壁の開口部は、糸鰓類であ るフネガイ目フネガイ科のリュウキュウサルボウの仲間 Anadara granosaやワシノハガイの仲間のArca avellaneで はOrifice構造を示した12-14箇所が連続して並んでいるこ とを報告している。本研究で用いた糸鰓類であるフネガイ 目フネガイ科のサルボウガイでも同様に13-14箇所が胃壁 にOrifice構造を示して開口している様子が確認された。一 方、胃壁の開口部は、分類上フネガイ目に続くとされる等 糸鰓類であるイガイ目のムラサキイガイおよびリシケタイ ラギではOrifices構造を示す開口部が3箇所<sup>9,10,14)</sup>. 擬弁 鰓類であるウグイスガイ目のアコヤガイではOrifices構造 が3箇所とEmbayment構造が2箇所の合計5箇所<sup>11)</sup>から なると報告されている。これらのことから、糸鰓類であ るフネガイ目の胃壁の開口部は、擬弁鰓類であるウグイ スガイ目と異なって、等糸鰓類であるイガイ目と同様に Orifices構造を示すが、その数は等糸鰓類や擬弁鰓類のも のよりも著しく多いことが明らかとなった。

等糸鰓類および真弁鰓類では、導管は主導管(Main duct)と二次導管(Secondary duct)とに分かれ、主導管 は断面をみると繊毛で覆われている部分と刷子縁で覆われ ている部分で構成され、二次導管は周囲が刷子縁からなっ ていると報告されている<sup>7)</sup>。しかし、サルボウガイの導管 は、その先端まで一様で繊毛で覆われている部分と刷子縁 で覆われている部分で構成されていた。このことから、サ ルボウガイは等糸鰓類および真弁鰓類で認められるような 二次導管を備えていないと判断した。

Nakazima<sup>8)</sup>は、糸鰓類であるフネガイ目フネガイ科の リュウキュウサルボウの仲間のAnadara subcrenataや分類 上フネガイ目に続くとされるイガイ目イガイ科のスキゲヒ バリガイの仲間のBrachidontes senhousiaの中腸腺細管は 導管の末端から出た後に中腸腺細管がさらに枝分かれする Simple branching type Iを示すとしている。本研究の結果 でも同様に、糸鰓類であるフネガイ目フネガイ科のサルボ ウガイの中腸腺細管はSimple branching type Iを示してい た。これらのことから、フネガイ目やイガイ目の中腸腺細 管はSimple branching type Iの構造示すと考えられる。 中腸腺細管の暗細胞は、若い細胞で将来栄養細胞にな ると推測されている<sup>6)</sup>。暗細胞は、真弁鰓類ではCryptに 存在している<sup>20)</sup>。しかし、原鰓類であるクルミガイ目の *Nucula sulcata*や等糸鰓類であるイガイ目の*Mytilus edulis* や*M. galloprovincialis*ではCryptが存在しないため、暗細 胞の中腸腺細管での位置は一定の傾向を認めがたいと報 告されている<sup>20)</sup>。糸鰓類であるサルボウガイでも同様に Cryptがなく、暗細胞は消化細胞の間に散在していた。こ れらのことから、原鰓類、等糸鰓類や糸鰓類の中腸腺細管 は、Cryptがなく、暗細胞が消化細胞の間に散在している 構造となっていると考えられる。

#### 要 約

サルボウガイの中腸腺の構造を鋳型および組織像から調 べた。中腸腺は食道から幽門部にかけての胃の周囲を覆う 形で展開していた。導管は十数本が胃の中央付近の周囲に 一列にorifice構造を示して出ていた。導管は繊毛で覆われ た切れ込みと刷子縁で覆われた部分で構成され、その構造 は枝分かれした先端まで同一であった。中腸腺細管は導管 から出た後、分岐していた。

### 文 献

- Yonge C M : The digestive diverticula in the lamellibranchs. *Trans Roy Soc Edinb*, 54, 703-718 (1926)
- Purchon R D : The stomach in the Filibranchia and Pseudolamellibranchia. Proc Zool Soc, London, 129, 27-60 (1957)
- 3) Purchon R D : The stomach in the Eulamellibranchia; Stomach type IV. Proc Zool Soc, London, 131, 487-525 (1958)
- 4) Purchon R D : The stomach in the Eulamellibranchia;
  Stomach type IV and V. *Proc Zool Soc, London*, 135, 431-489 (1960)
- 5) Owen G : Observations on the stomach and digestive diverticula of the lamellibranchia. II. The Nuculidae. *Quart J micr Sci*, 97, 541–567 (1955)
- 6) Yonge C M : Structure and physiology of the organs of feeding and digestion in Ostrea edulis. J Mar Biol Ass UK, 14, 295–386 (1926)

- 7) Owen G : Observations on the stomach and digestive diverticula of the lamellibranchia. I. The Anisomyaria and Eulamellibranchia. *Quart J micr Sci*, **97**, 517–537 (1955)
- 8) Nakazima M : On the structure and function of the mid-gut gland of Mollusca with a general consideration of the feeding habits and systematic relation. Jpn J Zool, 11, 469-566 (1956)
- 9)山元憲一,半田岳志:ムラサキイガイの中腸腺の構造.水大校研報,57(2),111-127 (2008)
- 山元憲一,半田岳志:タイラギの中腸腺の構造.水大 校研報,57(1),43-56 (2008)
- 山元憲一,半田岳志,近藤昌和:アコヤガイの中腸腺の構造.水大校研報,52(1),31-43 (2004)
- 山元憲一・半田岳志・近藤昌和:マガキの中腸腺の鋳 型作成の試み.水大校研報, 51(3), 71-80 (2003)
- 13) 波部忠重,浜谷巌,奥谷喬司:分類.波部忠重,奥谷
   6司,西脇三郎(編),軟体動物概説(上巻).サイエンティスト社,pp 3-134 (1994)
- 14) 首藤次男:系統と進化.波部忠重,奥谷喬司,西脇三郎(編),軟体動物概説(上巻).サイエンティスト社,pp 217-269 (1994)
- 15)奥谷喬司:日本近海産貝類図鑑.奥谷喬司(編).東 海大学出版会(2000)
- 16) Handa T and Yamamoto K : Corrosion casting of the digestive diverticula of the pearl oyster, *Pinctada fucata martensii* (Mollusca : Bivalvia). J Shell Res, 22(3), 777-779 (2003)
- 17) Namba K, Kobayashi M, Aida S, Uematsu K, Yoshida M, Kondo Y and Miyata Y : Persistent relaxation of the adductor muscle of oyster *Crassostrea gigas* induced by magnesium ion. *Fish Sci*, 61, 241–244 (1995))
- 18) Bell T A and Lightner D V : A handbook of normal Penaeid shrimp history. World aquaculture society, USA, pp 2.
- 19)山元憲一,近藤昌和,半田岳志,林安章:アコヤガイの鰓換水に及ぼすホルマリンの影響.水産増殖, 49(4),461-467 (2001)
- 20) Owen G : Lysosomes, peroxisomes and bivalves. Sci Prog, Oxf, 60, 299-318 (1972)



Fig. 1. Cross-section surfaces of the soft part of the Half-crenated ark, *Scapharca kagoshimensis*. a, left side ; b, right side ; D, digestive diverticula ; DD, duct ; ST, stomach ; OS, oesophagus ; OMG, opening of mid-gut ; IN, intestine ; FT, foot. Bar in A= 1 cm, Bars in B and C=100 μ m.



Fig. 2. Corrosion cast replica of the digestive organ of the Half-crenated ark. a, left side; b, right side ; D, digestive diverticula ; DD, duct; OS, oesophagus ; ST, stomach ; IN, intestine ; AN, anus. Bars in A and B=1 cm, Bar in  $C=100 \mu$  m.



Fig. 3. Vertical sections of the soft part of the Half-crenated ark. a, whole surface of the soft part ; b, magnified view of the digestive organ in a; D, digestive diverticula ; DD, duct ; IN, intestine ; AD, aductor muscle ; CT, ctenidium ; FT, foot ; MT, mantle ; GD, gonad ; OS, oesophagus ; ST, stomach; LP, labial pulp. Bars=100 μ m.



Fig. 4. Longitudinal sections of the soft part of the Half-crenated ark. a, whole surface of the soft part ; b, magnified view of the digestive organ in a ; D, digestive diverticula ; DD, duct ; IN, intestine ; FT, foot ; MT, mantle ; GD, gonad ; OS, oesophagus ; ST, stomach ; LP, labial pulp. Bars=100  $\mu$  m.











**Fig. 6.** Corrosion cast replicas (A, B) and Azan stained sections (C, D, E, F) of the duct and tubule of digestive diverticula of the Half-crenated ark. DD, duct; T, tubule; DC, digestive cell; DS, darkly staining cell; FC, flagellated cell; JDT, junction of a duct with tubule; CL, cilium; VL, villus; BC, red blood cell. Bars in A and B=100 μ m, Bars in C, D, E and F=10 μ m